

尿道留置カテーテル使用率

QI 項目の解説

入院されている患者さんのうち尿道留置カテーテル使用による尿路感染は、ハイリスク患者では膀胱炎、腎盂炎、敗血症に至ることがあるため、管理の徹底に努めています。

尿道留置カテーテル使用率割合

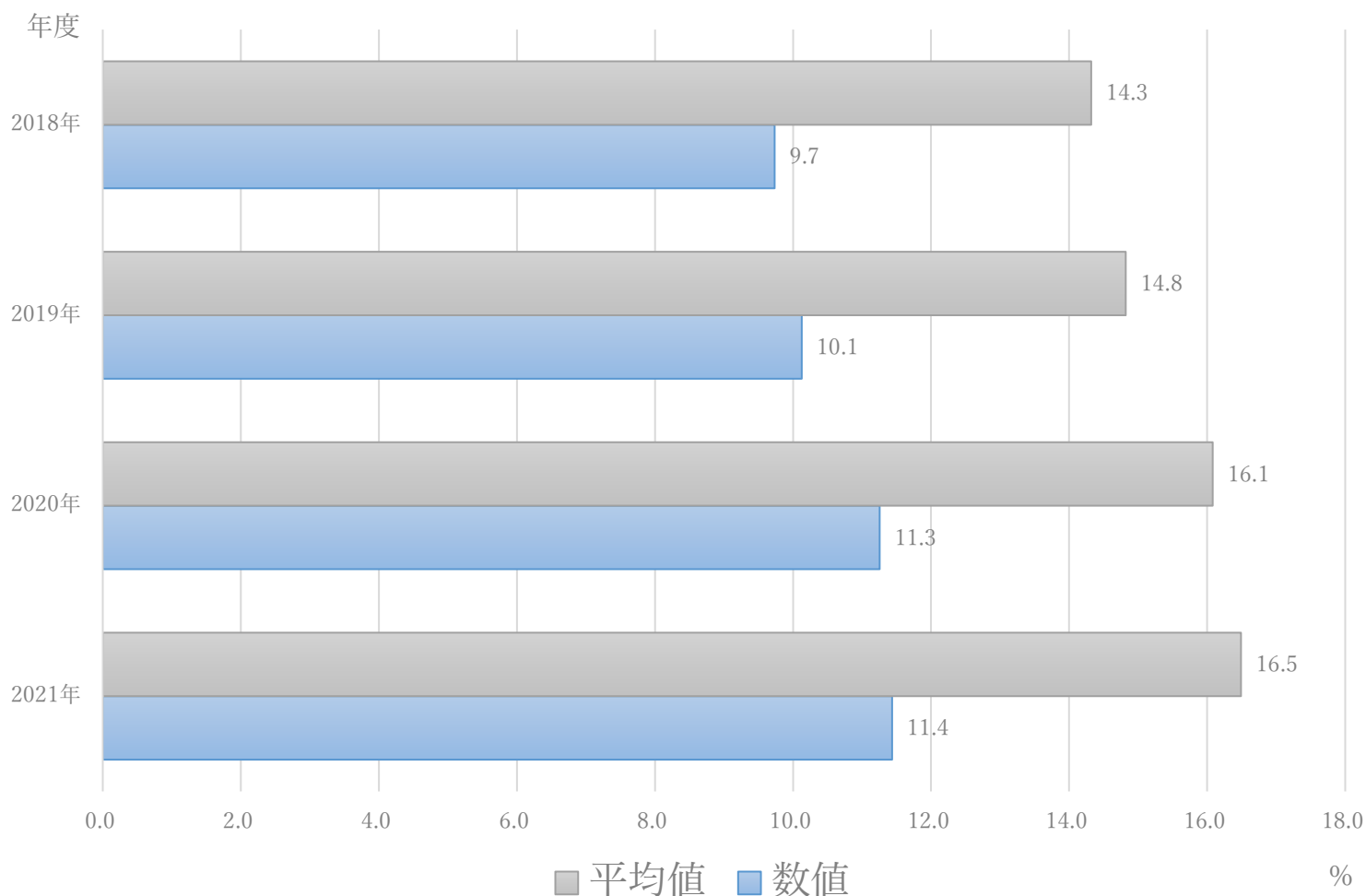
指標の定義・計測方法

分子：尿道留置カテーテルが挿入されている入院延べ患者数

×100【%】

分母：入院延べ患者数

尿道留置カテーテル使用率



2021 当院データと全施設平均値との比較・原因分析

当院が適切に挿入・抜去できています。

尿道留置カテーテル使用率は全施設平均より下回り、排尿ケアチームの院内啓発、教育により不要な留置を回避するように指導しており、その成果と考えます。

2021 当院データと 2020 当院データとの比較・原因分析

2020 年データと同等の数値です。

数値改善に向けた今後の取り組み

例年どおり、サーベイランスによる評価と部署へのフィードバックを行い、目立って使用日数が長い場合は、指導を行います。ウロバックの適切な取扱いの確認、尿道カテーテル留置の絶対的適応、相対的適応について従来通り周知し、不要なカテーテル留置を早期に抜去することを排尿ケアチームとリンクナースにより徹底しています。

2021 当院データ評価時の改善策の実施状況と評価

評価に問題がないため、サーベイランスのフィードバックのみを実施し、当院では排尿ケアチームの介入により、排尿自立支援を病棟スタッフと包括的に継続しており、改善策としては十分に実施を継続していると評価しています。